



同窓会だより

同窓会だより

副会長 野内 昭 宏

2019年年末に中国で初発したといわれる新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に世界中に蔓延して猛威を振るっています。この原稿を執筆している2021年正月現在、日本では4千人/日を、東京でも1千人/日を超える新規感染者が発生する日があるという、衝撃的な数字となっています。

当同窓会の活動も大きな影響を受けています。集会形式の集まりは原則中止または延期とする代わりに、リモート形式で可能な事業は極力開催致しました。それはまた、遠方の会員との情報交換が容易なものになるという思わぬメリットを生み出しました。

例えば、3年ごとに行っていて今年度開催の巡りに当たった支部長会議には、全国で19ある支部のうち北海道～近畿の16の支部長が一堂に会して情報交換を行いました。この高い出席率は初めてで、リモートだからこそできたことだろうと思います。



支部長会議の様子

また、2020年11月に開催した学術セミナーでは、2018年3月いっぱいをもって大学を退職され

た福島正義先生（歯学科8期生）から「超高齢化先進地域における超高齢者歯科—臨床奮戦する名誉教授のつづやき—」という演題でご講演頂いたのですが、福島先生は勤務されている福島県昭和村から講演されており、受講者は、遠くは北海道～近くは昭和村の隣町の会津若松まで、全国津々浦々に及びました。



講演中の福島先生

当同窓会の会員は、約1/3が県内に、約1/3が上越新幹線沿線に、残り約1/3がその他の全国各地や海外に在住されています。以前から、特に遠方に在住する会員に対してのサービスが問題になっていたのですが、このようなりモート開催で物理的な距離を一気に縮めることができるようになり、事業の可能性の幅も広がると考えられます。

日々感染の恐怖におびえ、自粛生活によるストレスや、先の見通せない不安や焦燥感の中にいる私たちですが、マイナスのことばかりを考えるのではなく、新しい時代いかに対応して新しい価値や制度等を創成できるのか、また、いかに自分を変えていけるのかを考えていく、そのようなチャンスととらえてみたいと思います。





令和2年度新潟大学歯学部同窓会
 学術セミナーⅢ
 超高齢化先進地域における超高齢者歯科
 ―臨床奮戦する名誉教授のつづやき―を受講して

口腔生命福祉学科12期 春 山 海 帆

今回、新潟大学歯学部OGとして学術セミナーを受講できたこと、大変嬉しく思っております。また、新型肺炎流行の最中においてもオンライン開催を採用し、この様な機会を設けてくださった新潟大学歯学部同窓会の皆様にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

私は現在、社会福祉協議会の職員として障害者の自立支援に従事しています。やはり高齢者、障害者の口腔内の問題には思うところが多く、その一方で歯科以外の日常生活上の支援をするのが精一杯というのが現状です。歯科衛生士免許を取得している社会福祉士としてなにか気付けること、できることはないかと思い今回のセミナーを受講させていただきました。

セミナーでは、福島先生がお住まいの80歳代人口が最多という“超高齢化先進地域”において、医療従事者、もしくは福祉職員の人数に限られる中、地域住民の歯の健康を守るための考え方や方法を学ぶことができました。

特に社協職員として興味深かったのが、福島先

生の診療所と併設している高齢者施設と連携し、送迎サービスを組み合わせた歯科診療を行なっていることです。通常は歯科医が施設や自宅へ訪問し治療することが多いと思います。サービス提供者が少ない以上、訪問日の調整、訪問先での器具やスペースの確保の問題、患者や家族の負担などを軽減する方法として送迎治療は非常に有効だと思いました。

また、福島先生は患者の口腔内のみならず患者の生活や人生を含めて診察していると感じました。患者に負担をかけないよう通院回数が少ない治療法を選択すること、材料に余命以上の耐久性は求めず臨床操作性を優先すること、う蝕の予防・進行の抑制をはかることなど、人生を支える歯の治療を行っており、それは必ずしも口腔内の完治を目指せばよいものではないということが伺えました。

―無歯顎で生まれ、無歯顎で死ぬことは歯科の敗北とは言えない。―

万人に対し教科書通りのサービスを提供するのではなく、対象者の生活にとって一番重要なことはなにか、よりよく人生を送る方法はないか、私も日々の業務の中で模索していきます。

最後になりますが、卒業した後にも学ぶ機会を与えてくださった同窓会の皆様に改めて感謝いたします。またインターネットを介さずに直接お会いできる日を楽しみにしております。

